

練馬区議会議員(無所属)

かとうき桜子 区政レポート



2017年4月号

(議会報告通号 Vol. 106)

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102
電話 03-3978-4154 FAX03-3978-4158
HP <http://www.sakurako-nerima.com/>
メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp



メールマガジン発行中!

気仙沼などの地域を訪ねてきました



(左) 2012年8月、震災時に避難所となった紫会館の前で (右) お色直しして今回出店したキッチンカー

★3月25日～28日、宮城県気仙沼、南三陸、石巻に行ってきました。福島・宮城・岩手の仮設商店街の方達が交流する「復興グルメ・F1大会」というイベントが定期的に開かれているのですが、3月26日に14回目の大会が南三陸であったので、石巻から出店した友人のお手伝いをしてきました。

★気仙沼の仮設商店街・南町紫市場に入っているコロケ屋さんが震災前から使っていたキッチンカーは、津波の被害を逃れ、仮設商店街がオープンするまで活躍していました。被災した人たちの食を支えながら、色々な経験をさせていただきました。しかし、店舗ができてからは使われなくなってしまいました。そこで、私の仲間を引き継いで、石巻や関東でもまた活躍してもらいたい、と思っています。南三陸のF1大会には、このキッチンカーで出場しました。

★各地の仮設商店街は少しずつ閉鎖し、気仙沼では遅くとも夏までには本設の商店街がオープンすることになりそうです。南町紫市場の周辺も、公営住宅や本設商店街の建設、かさ上げ工事が進んで、昨年行った時とはずいぶん街の様子が変わっていました。気仙沼大島と市内をつなぐ橋の工事も進んでいます。

★私は2011年夏から気仙沼と交流をしています。繰り返し訪れることで街の変化を感じたり、地元の方と深くお話ができるようになってきて、訪ねるたびに新しい発見をしています。

7月8日～10日にまた、誘い合わせて出かけたという計画です。ご関心のある方はお声かけください。

二〇一七年四月

かとうき 桜子

5月14日(日)、区政報告&意見交換会を行ないます

かとうき桜子が3期目に当選させていただいたのが2015年4月。この春で3期目の活動も折り返し地点となります。

そこで、今回の会では、直近の議会の活動報告の他に、改めてこの2年を振り返った報告をさせていただくとともに、これからの2年間をどのように活動していくべきか、みなさんのご意見を伺えればと思っております。

【日にち】

2017年5月14日(日)

午後2時～4時

【場所】

勤労福祉会館 会議室大

【参加費】

無料



宮城県気仙沼へのカンパ、募集中

市民ふくしフォーラム・東北応援プロジェクトでは、東日本大震災で津波の被害や地盤沈下の起きた宮城県気仙沼市にある仮設商店街・南町紫市場の応援をしています。

気仙沼は、2011年8月、まだ津波の被害の爪痕が大きく残っていた時期にかとうき桜子が初めて訪れ、ボランティアとして関わったことを機につながりを持った地域です。ご縁のできた地域と継続したかかわりを持っていきたいとの思いで、カンパを募っています。

本設商店街の工事の遅れが続いていましたが、いよいよこの春には移行できそうな見通しです。2011年12月の商店街開設時からカンパを続けており、2017年3月21日まで累計で151万6770円をお送りしました。いよいよ、この春には移転の予定です。カンパの呼びかけも、今回でひとまず一区切りにしたいと思っております。

これからも形を変えながら応援は続けていきますので、今後も引き続き皆さんにもご報告させていただきます。

【振り込み用紙による振り込み】

00130-2-496362 市民ふくしフォーラム

【銀行振り込み：ゆうちょ銀行からは手数料無料です】

ゆうちょ銀行 〇一九店 当座 0496362 シミンフクシフォーラム

(こちらからお振込の場合は、別途、ご連絡先とカンパの種類をメールまたはFAXにてお知らせください。)

メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp FAX 03-3978-4158)

かとうき桜子プロフィール

- 1980年生まれ
- 慶応義塾大学文学部に在学中、ホームヘルパー2級の資格を取得
- 大学卒業後、夜間の上智社会福祉専門学校に入学、社会福祉士取得
- NPOで介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く幅広くかかわるの必要性を感じ、2007年区議会議員選挙に初挑戦、当選
- 公立保育園の民営化問題に疑問を感じ、区議の活動のかたわら立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科にて研究。2010年修了
- 2012年、検診で子宮頸がんが見つかり治療。女性の健康へのとりくみの必要性についても政策提言
- 大泉学園町4丁目に猫2匹と夫と住んでいる



孤立のない地域づくりを求めて〜2017年度予算審査より〜

練馬区議会の2017年第1回定例会は2月8日から3月15日まで開かれました。そのうち14日間、予算特別委員会が行なわれ、質疑・審査をしてきました。今回のレポートでは、定例会最終日の3月15日、本会議においてかとうぎ桜子が2017年度予算に対する反対の討論をした内容をご紹介します。

行政の役割は、住民が孤立せずに安心して暮らせる地域づくり

今後、行政に求められる役割は何なのだろうか。厳しくなっていく財政、老朽化する公共施設など、課題はさまざまありますが、中でも見失わずに持ち続けなければならぬ行政の役割は、住民が孤立せずに安心して暮らせる地域づくりなのではないかと私は考えます。そしてそれが、「行政の効率化が重要」という言葉のもとにないがしろにされている現状があるのではないかと懸念を持っています。

温かさのある釜ヶ崎で感じたこと

私は昨年末、大阪の釜ヶ崎という地域にあることでの施設でボランティアをしてきました。釜ヶ崎は日雇い労働者の街です。今は高齢化して介護が必要になっている人もいた

り、非正規で厳しい労働環境にある人、ひとり親の家庭、外国から来て慣れない日本社会の中で子育てやお仕事を頑張っている人など、様々な境遇の人がいて、こどもたちを取り巻く環境も厳しい面もあります。でも、この街で暮らす人たちは、自分の持っている生活のしんどさを一人で抱え込まずに身近な周りの人に話せている。つらい時は誰かが支えてくれるんだという安心感と温かさのある街でした。

「余白」を切り捨ててきた社会

労働の問題や貧困問題、障害のある人を取り巻く厳しい環境、子育ての大変さ、介護の問題など、生活課題を抱える人は日本中どの地域にもいますが、多くの場合は困っていることを誰にも相談できず、自分だけで頑張ろうとして、孤立してしまっています。一方でこども食堂をやりたいと思う人がたくさん出てきているように、「近所に困っている人

がいるなら支えたい」と思っている人も多いはずなのに、なぜつながらることができないのか。釜ヶ崎から帰ってきてからずっと考えていたのですが、その理由の一つは、行政があまりにも効率を求め、余白を切り捨ててきたからではないかと思ひ至りました。

練馬区でも失われる「余白」

練馬区は、2016年度で出張所を廃止します。かつては区内に17か所ある、身近な出張所に行けば、対面で住民票を取ったりする中で自分の困りごとを解決するための行政のサービスをj知ることできました。

出張所を廃止し、2017年6月には自動交付機も廃止して、「コンビニ交付」に切り替えても、住民票を発行するという本来業務は一見滞りなくできるでしょう。コンビニ交付以外にも郵便局や区民事務所で証明書は取れる。それで何か問題なのかと、課題は顕在化しづらいかもありません。でも、生活の困りごとを抱え、もやもやした不安をどこに相談すればいいか分からない人の行き場所は失われてしまっています。

区は、「出張所の跡を地域包括支援センター（※介護保険に位置づけられた相談機関）などにして身近な相談の場を作っていく」といいますが、高齢者という枠組みには入らない人、自分の困りごとを話す場は地域包括支援センターではないと感じている人はどうなるでしょうか。出張所の廃止は、区民であればだれでもアクセスできるといふ幅広さー「余白」を失うことです。

人と人をつなげる役割を

予算審査の中で私は、バリアフリーマップや清掃における戸別訪問収集、「あしすと」(※高齢者・障害者を対象としたごみ出しの支援)の事業、防災レジジの福祉事業所向け研修などは良い取り組みだと述べました。区の職員が手間を惜しまず現場を歩き、区民と対話し、ともに考え、課題を見つける。今ある施策では抜け落ちて困っている人、孤立している人の声を聴くーそうした地に足のついた取り組みをもっと広げていくべきだと考えるからです。

今回の予算審査の中ではまた、「指定管理者制度を導入して民間に任せている現場のスタッフの処遇は事業者の責任だ」という区からの答弁がありました。施設の改修などの計画だけは区が立てるのに、それで休館になる場合ロにその間、現場で働いている人の処遇はどうなるのか、その影響を考慮しない姿勢は無責任で残念です。少なくとも指定管理導入施設を休館にする必要のある時は、可能な限り早い段階で事業者と協議するといった配慮のしくみは必要です。

行政の役割は、住民が孤立せず安心して暮らせるよう、地域の人と人をつなげることなのではないかと、私は考えます。多様な課題を持つ区民一人ひとりに思いを馳せられること、委託しているものも含め、区民に近い現場で働く従事者の声にも耳を傾けた施策を作っていくという、もっと血の通った区政を目指すことを求めて、討論とします。

2017年度予算審査の中で、かとうぎ桜子が発言した主な内容

- ・財政や公共施設の今後のあり方は、検討段階から区民に情報発信し、ともに考える機会を作るべき。
- ・避難拠点での災害時要援護者の対応のしかたを整理して当事者に周知を図るべき。
- ・2016年度に取り組んだ福祉事業所向けの防災研修会は今後も実施し、災害時の福祉事業所との連携の充実を。
- ・指定管理者導入施設を休館する際、事業者へ過度の負担をかけないようなルール作りをすべき。
- ・住民票等の自動交付機は2016年度途中まででも25万件を超える利用がある。マイナンバーカードを前提としたコンビニ交付に切り替えて、自動交付機を2017年度で廃止するのは拙速なので、計画を見直すべき。
- ・高齢者・障害者を対象とした、ごみの戸別訪問収集や、家の中にたまってしまったごみの片づけを手伝う「あしすと」など、ごみ収集から見えてくる生活課題に取り組む姿勢は行政のあり方として大切なので継続し、より多くの区民に知っていただく工夫をすべき。
- ・バリアフリーマップは、今後継続して生きた情報にしていくことができるよう、更新のしくみの確立を。
- ・地域精神保健相談員を置いてのアウトリーチの成果と課題をふまえ、相談員を増員するなど事業の充実を。
- ・鉄道駅ホームの安全性は、内方線付き点状ブロックにとどまらず、ホームドアの設置やその他の安全対策の充実について引き続き事業者と協議を。
- ・図書館ではバリアフリー映画会などの取り組みを通じ、図書館における障害者サービスの充実に努めよ。
- ・特別支援教育は、重複障害のある子への対応や都との連携、就学相談のあり方など時間をかけて検証する必要があることは多いので、改善方法を検討すべき。
- ・要保護児童のショートステイを新たに始める中で、虐待が心配される親子への支援の充実を図る必要がある。
- ・児童相談所との連携の強化の中で、10代後半以降のこども・若者への支援も進めるべき。
- ・自立支援住宅改修給付は、医療と介護の連携・在宅介護の充実という観点から整合性のない部分があるため、基準を見直す必要がある。



質問のもっと詳しい内容は、かとうぎ桜子のブログに載せていますので、ご覧ください！